

留学報告書

2016.12.6
Carnegie Mellon University Tepper School of Business
永島航洋

1. 生活

アメリカでの生活が二年目に突入しました。一年目と比較すると楽しめる余裕が出てきた気がします。我が家には7歳と4歳のBoy達がありますが、最近になって、家で兄弟で遊んでいるときには英語で会話をするようになりました。英語の方が楽なようです。凄まじい適応力です。妻は英語では苦勞していますが、度胸に磨きをかけて乗り切っています。

2. インターンシップ

5月の頭から3ヶ月間、アップルの本社にてインターンシップを行いました。本社はカリフォルニアのクパチーノという町にあります。CMUのあるピッツバーグと比べると、とても気候が良く、過ごし易かったです。家族はピッツバーグに残してきたので、この3ヶ月は久しぶりに単身での生活となりました。アップルの用意してくれたアパートでは定期的に掃除をしてくれたり、本社の食堂は夕食を実質無料で提供してくれたり、生活自体はとても快適でした。アパートにはもう一人インターン生が住んでおりましたが、とても気さくなナイスガイで週末には一緒にハイキングに行ったりもしました。写真はその時のものです。

インターンを開始して、すぐに感じたのはアップルの強烈な秘密主義です。初日の2日間ぐらいかけてみっちり教育されました。ということで業務内容については書けません。前半は英語でのミーティングや上司とのやりとりに苦勞はしましたが、後半ではある程度慣れてきたのとテーマの相性が良かったこともあり、良い結果が出せました。



Pinnacles National Park with Apple interns
(一番左が私、一番右がルームメイトのTim)

3. クラス関連

- **Commercialization and innovatio**

自分達で考えたアイデアを元に新しいビジネスをつくっていきながら、必要なメソッドを学んでいくという授業です。講義は30%ぐらいで、講義以外にスタートアップのCEOの話の聞いたり、自分達のプロジェクトの問題点についてクラスで議論したりします。私は、環境中の電磁波を収集して電源にするエナジーハーベスティングに関連したビジネスのプラン構築をプロジェクトとして行いました。途中で、現実的に必要な電力を確保するのに非常に大きなアンテナが必要になる、というごく当たり前の壁にぶつかりました。最終的にはマーケットをうまく選択することで、コンペティティブになる、という結論になりました。技術をベースにどのようにビジネスを作っていくかというプロセスを学ぶ上では良い授業でした。

- **Design Thinking and Practice**

Design Thinkingとは何か、というところから始まり、クラスで学んだ手法を元に実際の問題を題材にしてビジネスを作っていく、というクラスです。Six hat法やCard Sorting, Story bordingといった手法を授業で学び、それらを用いて、顧客の感じている不満を可視化し、ソリューションを作り出していくという一連の流れを体験しました。徹底的に顧客の感じていることを深掘りしていくことがビジネスの創出には不可欠だな、と再認識したと同時に、具体的な手法を学べたことが良かったです。

- **Six Sigma Tools and Techniques**

統計の考え方をを用いて効果的に問題解決を行うことを目的としています。主に生産工程での品質に関わる問題解決を対象としています。よりロバストな製品のデザインのやり方（タグチメソッド）やQuality Controlの具体的な実施方法などについて学びました。元生産技術者としてはとても楽しめました。会社でやっていた内容を体系的に学びなおせたのが良かったです。

4. 最後に

この一年間、しっかりと勉学に集中することができたのも、船井財団のサポートのおかげです。改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。これからもしっかりと勉学に励みたいと思います。

以上